

十勝AI農業特区の指定について

2026年9月 10 日

大槻 奈那

垣内 俊哉

越塚 登

中川 雅之

本田 桂子

本年1月の諮問会議において示された「国家戦略特区制度の新たな運営方針」に即し、十勝管内 19 市町村からの提案に基づく「AI農業特区」の創設に向けた検討が、かつてないスピード感をもって進められてきたことについてまずは評価したい。

今回の十勝管内 19 市町村の「AI農業特区」の構想は、我が国の農業の担い手の不足や高齢化が進み、食料生産及び安定供給に対するリスクが顕在化している中において、対象区域内における省人化を通じた農業生産性の向上と食料供給基盤の強化だけでなく、先進的なAI農業の実践の場となることで、若い世代にとって魅力ある就農環境を創出し、新たな農業の担い手の確保・拡大に資するものであり、我が国農業の国際競争力の強化につながり得るものと考えられる。特に、十勝地域は、これまでも新しい農業技術を積極的に取り入れ、国内随一の「食料基地」としての地位を確立してきたところ、大区画ほ場という特性は、AIや自動化技術の実証地としても適している上、19 市町村の連名による数多くの規制・制度改革の提案とスピード感のある対応方針の決定に加え、産学官による推進組織の設置は、当該 19 市町村の高い意欲と実行力を示すものといえ、AIを活用した先進的なインフラが国全体に波及していく将来性に強く期待できるものである。こうした中、今般、十勝管内 19 市町村を国家戦略特区として指定し、その取組を推進することは、先進的なAI農業に係る取組の実験場としてのポテンシャルを最大限発揮し、AI 農業技術の開発・実証、実装環境の整備とAI農業研究の拠点化を加速するものであり、適切であると考ええる。

その際、得られた知見や成果については、北海道全域、ひいては全国に広めていくことにより、我が国農業の国際競争力を引き上げるとともに、食料安全保障にも寄与していくことが期待される。十勝地域に蓄積された知見や成果を、汎用性の高い農業AIの開発や全国展開にどのようにつなげていくのか、今後明確にしていくことが重要である。また、多数の自治体からなる取組であることから、リーダーシップやガバナンスの整備も求められる。「十勝はひとつ」と言われる地域特性を基礎としながら、19 市町村の提案、実施の整合性を保つための具体的な枠組みの構築も期待したい。その上で、産官学連携の下、規制・制度改革が実現した後の地域全体の鳥瞰的な姿、それに至るスケジュールや KPI を共有しつつ、積極的かつ継続的に取組を進めていかれることを期待したい。